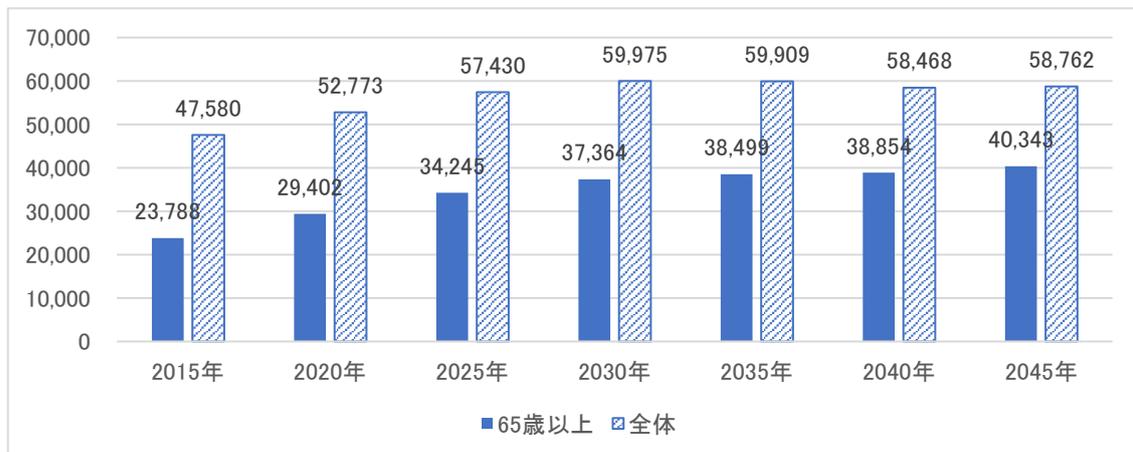


中長期的な視点での検討について(補足説明)

■ 千葉市の考え方

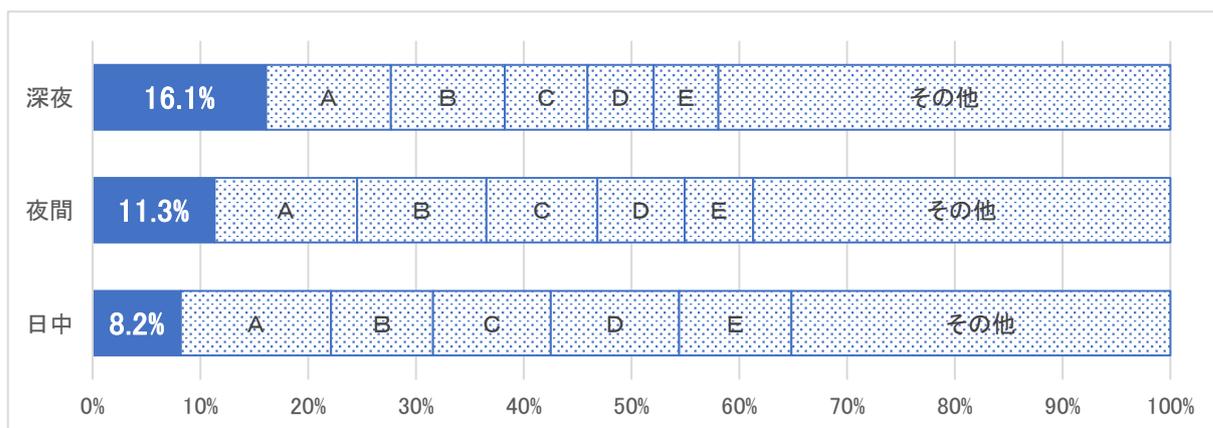
- 救急医療については、両市立病院で年間9,000件超の受入れが見込まれ、救急搬送件数が当面増加すること(図1)、周辺に一定の救急医療を担う医療機関があるものの、青葉病院が市内の中心にあって夜間救急の最後の砦となるなど救急医療において中核的な役割を果たしていること(図2)などの本市の実情を踏まえ、千葉市の救急医療体制を維持するためには、当面は両市立病院で引き続き担うことが適切と考えている。(図3)
- このため、青葉病院においても、救急医療を引き続き担うために、一定程度の診療領域がカバーされ、救急科をバックアップする体制が必要であることから、現状の急性期機能を継続することとしている。
- 新病院の開院時の病床規模は、現在の海浜病院の293床に青葉病院から40床程度を移行した分を加え330床程度で稼働することとしている。その後も市内の入院患者数の増加が見込まれており、2030年頃の新病院の稼働状況や医療需要の状況に応じ、両市立病院が果たす機能を考慮しながら、適切な規模を設定していく。
- 同時に、青葉病院の将来に向けた機能再編の検討は避けては通れないものと認識しており、新病院が本格的に稼働する2030年頃の状況を見定めつつ、現状のように救急搬送の受入れに対する需要が大きい場合は急性期機能を維持し、また回復期機能や在宅医療に対する連携・支援などに対する需要が増加した場合は機能再編を検討するなど、医療圏の需給状況に応じた長期的な視点で検討していく。
- 機能再編に際しては、医療圏全体として市民が必要とする医療を提供できるよう周辺医療機関とも十分に協議を行っていく。

図1：千葉市救急搬送件数将来推計



出典：千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略(2018年)、千葉市救急搬送データより作成

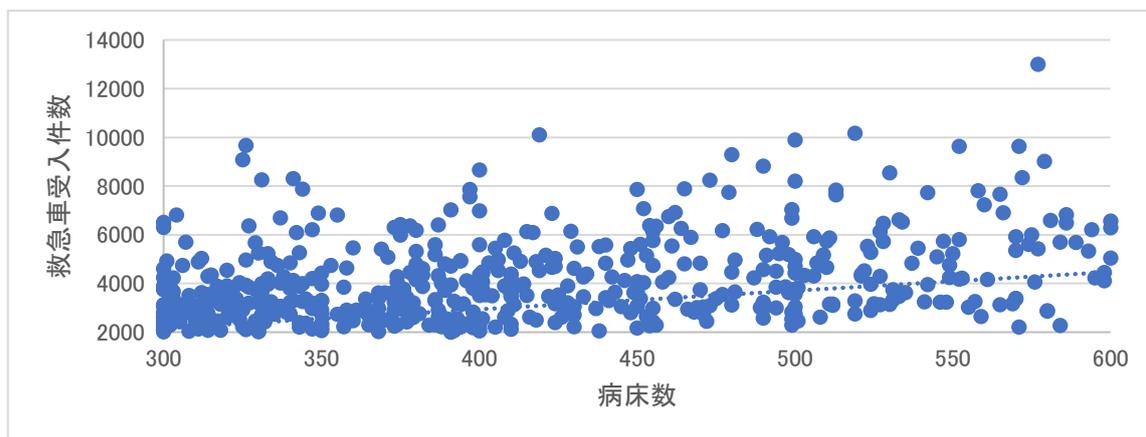
図 2：青葉病院救急搬送収容割合（時間帯別）



注) 日中：6時～18時 夜間：18時～22時 深夜：22時～6時 の区分で集計

出典：2019年 千葉市救急搬送データより作成

図 3：病床数と救急搬送件数



出典：2017年度 病床機能報告より作成

【参考】第6回委員会での意見

- ・ 今後の人口は減少する見通しであり、千葉医療圏の急性期機能（病床）は過剰とされているが、2030年の青葉病院及び新病院の合計病床数は現状より増加し、かつ、両病院とも、引き続き、急性期機能を担うこととしている。中長期的には持続可能かどうか疑問。
- ・ 将来にわたり安定的に医療を提供するためには、青葉病院の機能について、新病院や周辺医療機関との役割分担や関係性を明確にすることが重要であり、早急に関係者と検討に着手すべきであることから、青葉病院の機能再編について明確に基本構想に位置付ける必要があるのではないか。
- ・ 市民の医療ニーズの変化のスピードは速い。青葉病院の機能再編についてもスピード感をもって取り組む必要があるのではないか。